

国際交流活動実施報告書

国立台湾芸術大学彫塑系学科・多摩美術大学彫刻学科共催

《第15回シューズボックススカルプチャー展》及び

《2024 国際彫塑創作大学院生論壇/2024 Young Sculptors Summit》

実施期間：2024年10月29日（火）～11月6日（水）

実施場所：国立台湾芸術大学（台北）

参加者：博士前期課程彫刻専攻学9名

院1 / 田所和真・馬場さくら・山本伊織・山本ゆり

院2 / 坂本茂乃・カコウ・コウメイタツ・若松勇一・チョウイク(作品出品のみ)

参加大学：開催校 / 国立台湾芸術大学・多摩美術大学（共催校）

国内校 / 金沢美術工芸大学・筑波大学・沖縄芸術大学

海外校 / 南洋芸術大学（シンガポール）・泰國芸術大学（タイ）・弘益大学（韓国）

大葉大学（台湾） 全9大学 教員・学生約60名参加

開催概要：「国際彫刻専攻大学院生創作論壇」は、国立台湾芸術大学彫刻学科と多摩美術大学彫刻学科が共同発起、企画によるものです。2日間にわたるフォーラムでは、アジア各国の高等教育機関から彫刻専攻の大学院生を招き、個々の作品を発表し相互に交流する場を提供する事を目的とします。

この活動は、2018年に国立台湾芸術大学、多摩美術大学、大葉大学の30名の大学院生が参加した初回フォーラムに端を発し、今年と同様の形式を踏襲しつつも規模を拡大して行われた。台湾、日本、韓国、タイ、シンガポールなど、全9大学から彫刻専攻の大学院生を招き、学術発表のプレゼン形式で自身の作品などについて発表します。個々の創作プロセスや研究テーマ（および関連する研究興味）を共有し、異なる国や学校からのクリエイターとの交流を通して、より深く自分の創作にフィードバックできることを期待します。

このフォーラムは、国立台湾芸術大学の「第15回国際シューズボックススカルプチャー展」の一環であり、創作プロセスにおける交流と対話を促進し、コロナ禍で途絶えた国際交流を再開することを目的としています。若い彫刻クリエイターに国際的な交流の機会を提供し、将来の芸術創作と学術研究の基盤を築くものです。

発表形式：フォーラムは2日間にわたり、テーマごとに6セッションに分けられ、各セッションで7～8名の発表者が自身の創作プロセス（または関連する研究テーマ）についてプレゼンテーションを行います。各セッション終了後、1名の教師がコメンテーターとして内容を講評し、最後に総合討論を行います。各大学院生の発表時間は10分で、口頭報告をスライドで補足します。発表内容は、大学院の創作研究や関心のある研究テーマ、自分の創作プロセス、または今回の「国際シューズボックススカルプチャー展」への作品についてです。発表者の口頭発表はすべて英語で行われ、スライドは英語と母語の併用が可能としました。

2024 國際彫塑創作大學院生論壇/2024 Young Sculptors Summit

思考的拋物線
 2024 雕塑創作研究生國際論壇
 Arc of Thoughts: Young Sculptors Forum

2024
10/30-31

開幕茶會
 10/30 12:30 | 教學研究大樓1樓

論壇時間
 10/30 14:30-18:00
 10/31 09:00-17:10

論壇地點
 雕塑學系1F大視廳教室

國立臺灣藝術大學校長 鐘世凱
 國立臺灣藝術大學美術學院院長 兼
 國立臺灣藝術大學雕塑學系主任 劉俊蘭
 敬邀

主辦單位
 國立臺灣藝術大學 多摩美術大學
 協辦、贊助單位
 東京美術協會 三三文教基金會 深淵畫堂 國際藝術論壇 玉隆賞
 執行單位
 雕塑學系

合作單位: 日本/金澤美術工藝大學、筑波大學、沖繩藝術大學 新加坡/南洋藝術學院 泰國/泰國藝術大學 韓國/弘益大學 臺灣/國立台北藝術大學、大葉大學

大学院生による研究発表会
 国立台湾芸術大学
 多摩美術大学
 金沢美術工芸大学
 筑波大学・沖縄芸術大学
 南洋芸術大学
 泰國芸術大学
 弘益大学
 大葉大学

第15回 シューズボックススカラプチャー展

第15屆
國際袖珍雕塑展
 15th Shoebox Sculpture Exhibition

2024
10/30 — 11/09

謹訂於2024年10月30日(三)中午12:30
 於國立臺灣藝術大學—教學研究大樓1樓
 舉行「第15屆國際袖珍雕塑展」
 頒獎典禮暨開幕茶會

展覽時間
 10/30-11/09 9:00-17:00

展覽地點
 國立臺灣藝術大學教學研究大樓國際展覽廳1F
 大漢藝廊B1/大觀藝廊B2-1/真善美藝廊B2-2

主辦單位
 國立臺灣藝術大學 多摩美術大學
 協辦、贊助單位
 東京美術協會 三三文教基金會 深淵畫堂 國際藝術論壇 玉隆賞
 執行單位
 雕塑學系

邀請展出: 日本/東京藝術大學、金澤美術工藝大學、筑波大學、沖繩藝術大學、日本大學、大田原市藝術文化研究所 新加坡/南洋藝術學院 泰國/泰國藝術大學 韓國/弘益大學 臺灣/國立台北藝術大學、大葉大學

全9大学・約60名の学生による彫
 刻作品展



会場となる台湾芸術大学

○10月30日（水）

2024 国際彫塑創作大学院生論壇/2024 Young Sculptors Summit

フォーラム 1 日目



2 日間にわたる参加各国大学院生による研究発表フォーラムは、6つのセッションに分かれて一人約10分間の英語によるプレゼンテーションを行いました。学部卒制作品、大学院での研究テーマや学外発表などの作品紹介をテキストと写真を交えながら行いました。

Session1 / 素材と造形 Material and Form

Session2 / 絵画性と触覚イメージ Painterly and Tactile imagery

Session3 / 身体と自己イメージ Body and Self-image

Session4 / ファンタジーと具現化 Fantasy and embodiment

Session5 / 物質、行為、そして概念 Materiality, Action, and concept

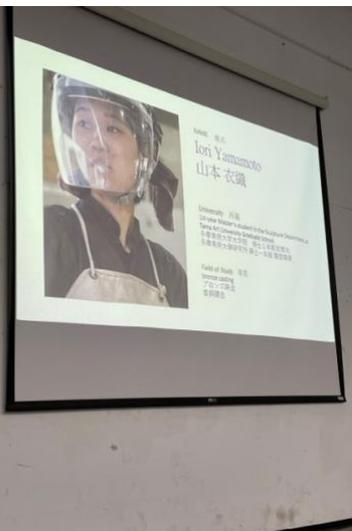
Session6 / 文化的イメージとオブジェクト

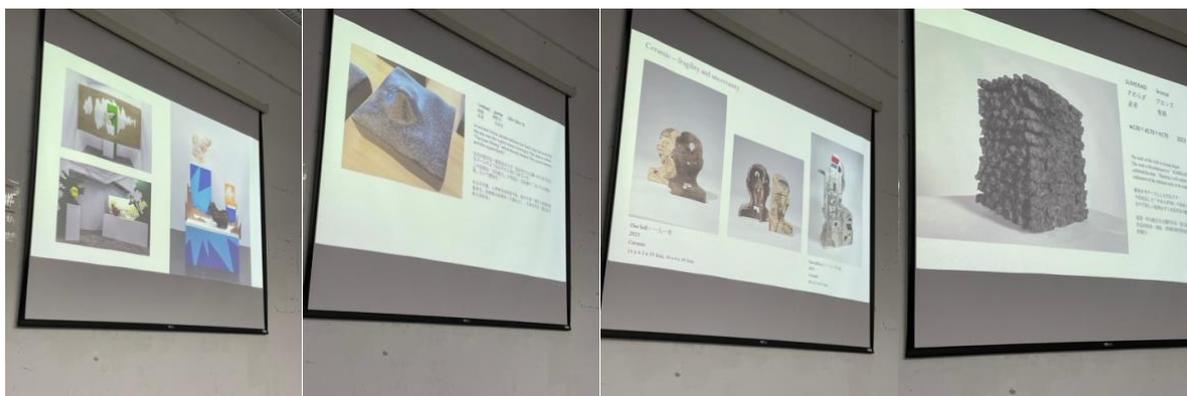
Cultural imagery and objects



本学大学院彫刻専攻生のプレゼンテーション

フォーラム会場となった彫塑系学科棟





弘益大学院生

本学留学生

台湾芸大院生

本学院生



本学院生



フォーラム2日目 パネルディスカッション



フォーラム終了後の懇親会での各国の学生

2日間にわたる学生プレゼンテーションは、本学院生にとっては初めての海外での研究発表であり、しかも英語による発表ということもあり、渡航前から事前シュミレーションを行い発表に備えました。当日は緊張も見られましたが、特に問題なく発表できていました。各大学の学生の作品、研究テーマはともに高いレベルにあり、各セッションにおいて多様でユニークなものが多く、国際的に見てもアジア地域における将来的な可能性に富んだプレゼンテーションが見られました。2日目、全学生のプレゼン終了後に各大学からの教員と参加学生とのトークセッションが行われ、本プロジェクトの意義とアジア地域における造形芸術の可能性について、闊達な意見交換が行われました。特に台湾芸術大学にはアジア地域、香港、タイやシンガポールなどから多くの留学生を受け入れており、本学よりも国際性に富んでいる印象がありました。使用言語も中国語が各国の共通言語としてある程度通用している点と、英語を第2言語とする国々が多いことから台湾が地政学的な意味からもアジア地域におけるアートの拠点となる可能性を強く感じたフォーラムでした。

論壇スケジュール

2024/10/30(Wed)-DAY1

Time	Activity	Notes	
14:20-14:30	Registration		
14:30-14:40	Welcome and Opening Remarks (10 mins)		
14:40-15:40	Session 01 材料形態 Material and Form	*10 mins for each presentation *Presenting in English	
	秋田 美野 AKITA Misuzu		A Study of Kanishitsu Technique in Modern and Contemporary
	王耀雄 WANG Shanhuan		Exploring Ambiguity Through Sculpture
	何耀 HE Kuang		Surface and Surface
	吳宇軒 WU Yu-Hsuan		WU Yu-Hsuan: Creative Research
15:40-15:50	Break (10 mins)		
15:50-16:50	Session 02 繪畫性與觸覺意識 Painting and Tactile Imagery	*10 mins for each presentation *Presenting in English	
	坂本茂乃 SAKAMOTO Shigeno		Introduction to the Works of Shigeno Sakamoto
	莊漢超 NYAN Soe		Facing the Shadows-Tracing the Forms in Artworks of Nyan Soe
	蔣子昭 HANS CHEW		HANS CHEW: Creative Research
	李政謙 LEE Min-Goo		LEE Min-Goo: Creative Research
16:50-17:05	Tea Break (15 mins)		
17:05-17:55	Panel Discussion 綜合討論	*Consecutive interpreting: Japanese/English and Mandarin/English	
	Moderator 蔣毅 YU Wei		
17:55-18:00	Closing Remarks (5 mins)		
18:00	The End of DAY 1 Programme		

2024/10/31(Thu) DAY2

Time	Activity	Notes	
08:30-09:00	Registration		
09:00-09:05	Opening Remarks (5mins)		
09:05-09:15	Session 03 身體與自我形象 Body and Self-Image	*10 mins for each presentation *Presenting in English	
	杉野 紗碧 MACHINO Saiyo		On the Artistic Expression and Split Emerging from Amatures in Figure Modeling
	趙亞 ZHAO Yu		ZHAO Yu: Creative Research
09:15-09:25	Session 03 身體與自我形象 Body and Self-Image	*10 mins for each presentation *Presenting in English	
高塚さくら BABA Sakura	On the Choice to Have a Child		
黃朝廷 HUANG Mingta	Exploring Traces and Presence Through Stone Sculpture		
09:25-09:35	Session 03 身體與自我形象 Body and Self-Image	*10 mins for each presentation *Presenting in English	
田村航真 TADOKORO Kazuma	Katuma TADOKORO: Creative Research		
陳瑞明 CHEN Yu-Hang	The Original Divinity		
09:35-09:45	Session 03 身體與自我形象 Body and Self-Image	*10 mins for each presentation *Presenting in English	
黃朝暉 HUANG Chen-Feng	Self-Contradiction		
15:40-15:50	Break (10 mins)		
15:50-16:50	Session 04 文化傳承與物件 Cultural Imagery and Objects	*10 mins for each presentation *Presenting in English	
	楊文謙 YANG Wen-Jia		Circulation and Digestion of Emotions and Information
	黃廷謙 GOH Jian Huang		The Multidimensionality of the Self
	土田 結加 DOTA Yuka		DOTA Yuka: Creative Research
	山本 衣織 YAMAMOTO Iori		Yamamoto Iori Sculpting the Life of Insects in Bronze
16:50-17:05	Tea Break (15 mins)		
17:05-17:55	Panel Discussion 綜合討論	*Consecutive interpreting: Japanese/English and Mandarin/English	
	Moderator 蔣毅 YU Wei		
17:55-18:00	Closing Remarks (5 mins)		
18:00	The End of the Forum		

Time	Activity	Notes	
13:10-14:10	Session 05 物質・行為與觀念 Materiality, Action, and Concept	*10 mins for each presentation *Presenting in English	
	李國昌 LEE Kuo-Chia		The Instability in Sculpture
	李健廷 LEE Jian Da		LEE Jian Da: Creative Research
	羅雅莉 LO Ya-Yun		Seal Surface, Base Surface, Intangible Sculpture
	野村 勇 Yuichi Wakamatsu		An Interpretation
14:10-14:25	Coffee Break (15 mins)		
14:25-15:25	Session 06 文化傳承與物件 Cultural Imagery and Objects	*10 mins for each presentation *Presenting in English	
	蔡燾 TSN Yu		Everyday Memories and Miniaturized Stories(Domest) in the City
	小林 美波 KOBAYASHI Misaki		Creation of Works Inspired by the Consumption of Characters
	王意鈞 WANG Yu-Jun		God is Not Here
	羅耀輝 LONG Wei-Xiang		The Nonexistent War of Illusory Safety
15:25-15:45	Tea Break (20 mins)		
17:00-17:10	Closing Remarks (10 mins)		
17:10	The End of the Forum		

○10月30日(水)

第15回 シューズボックス・スカルプチャー展 10月30日(水)～11月9日(土)

本展は其の開催当初より本学教職員及び学生が参加する彫刻作品展です。タイトルの「シューズボックス」とは、開催地である台湾芸術大学とアジア諸国の大学間を往復する彫刻作品を納めた梱包箱を「靴箱」に喩え命名されました。作品サイズは規格サイズ(125mm×225mm×305mm 以内)以内に収まる事を前提に素材や表現方法は自由とされるものです。

参加大学 / 国立台湾芸術大学・多摩美術大学・金沢美術工芸大学・筑波大学・沖縄芸術大学

南洋芸術大学(シンガポール)・泰國芸術大学(タイ)・弘益大学(韓国)・大葉大学(台湾)

全9大学 約60名

開催場所 / 台湾芸大研究棟 1f・b1f



本学出品者

◆本学出品者作品



多摩美術大学
坂本茂乃 Sakamoto Shigeno
視野の下 2024 30.5×22.5×12.5cm



多摩美術大学
馬場さくら Baba Sakura
おもい、おもい 2024 7×20×15cm



多摩美術大学
山本衣織 Yamamoto Iori
すめらぎ 500 2023 17×17×10cm



多摩美術大学
田所和真 Tadokoro Kazuma
タンクトップ 2024 30×22×12cm



多摩美術大学
山本ゆり Yamamoto Yuri
たまちゃん 2024 30.5×22.5×12.5cm



多摩美術大学
黄明達 Huang Ming-da
裂隙 2024 30×20×10cm

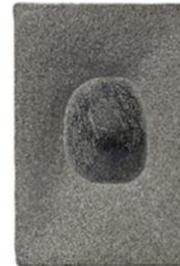
多摩美術大学
趙煜 Zhao Yu
瞬間・魚 2024 20×25×25cm



多摩美術大学
若松勇一 Wakamatsu Yuuichi
切り株 2024 30×30×19cm



多摩美術大学
何曠 He Kuang
自我交差 2024 30×20×7cm



多摩美術大学
工藤雄大 Kudo Yudai
かみひこうき 2024 20×25×25cm



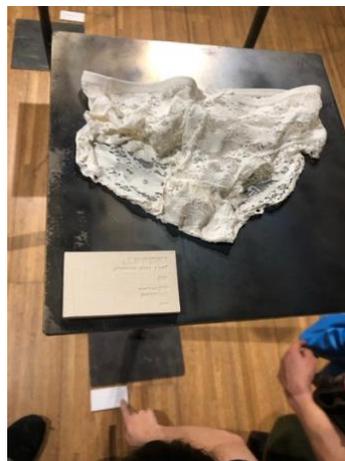
多摩美術大学
水上嘉久 Mizukami Yoshihisa
雨雲「籠」 2024 12.5×30.5×12.5 cm



◆本学出品者会場風景



◆他大学出品作品

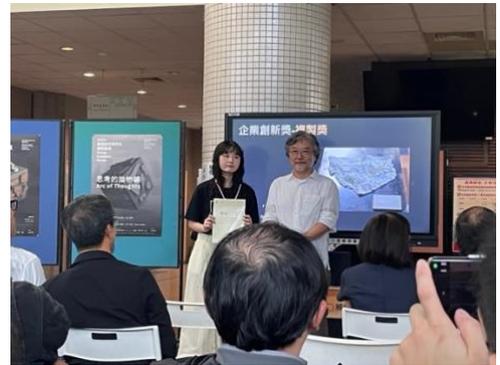


◆研究棟ギャラリーでの留学生展示

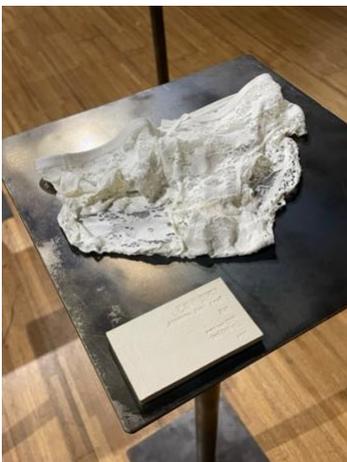


シューズボックススカルプチャー展に参加し、アジア諸大学の彫刻芸術に対する意識の高さと、表現の多様性に改めて驚きと感銘を受けることが出来ました。そこには欧米諸国の主導する現代美術を念頭に置いたり、模倣追従する姿勢はもはや感じられず、それぞれの地域に根ざした伝統性や歴史性を根底に据えたテーマやモチーフに溢れ、アジア地域の彫刻芸術の可能性を強く意識させる展覧会でした。

◆シューズボックススカルプチャー展開会式及び授賞式



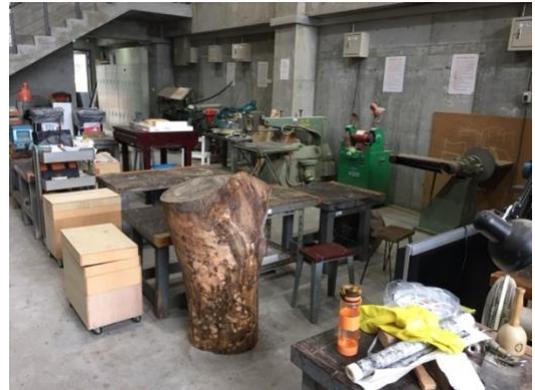
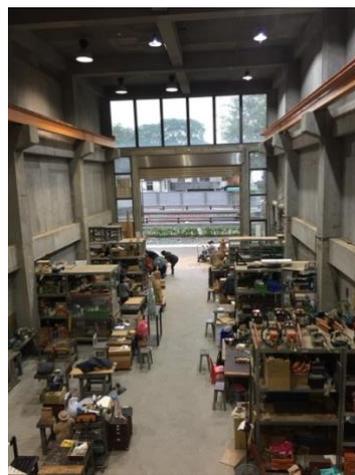
<受賞作品> (抜粋)



◆11月1日(金) 台湾芸術大学施設見学

彫塑学系工房群

木彫室



金属室



石彫室



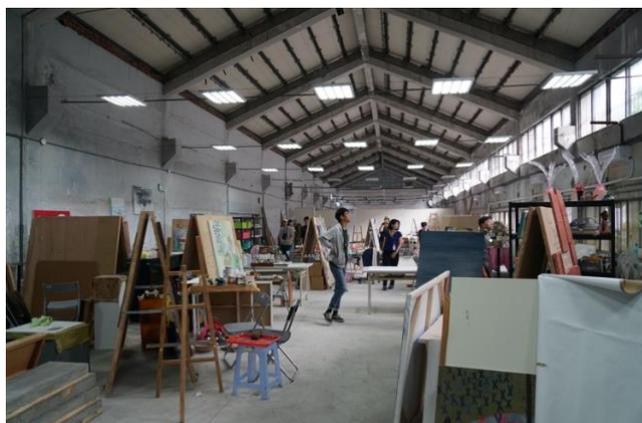
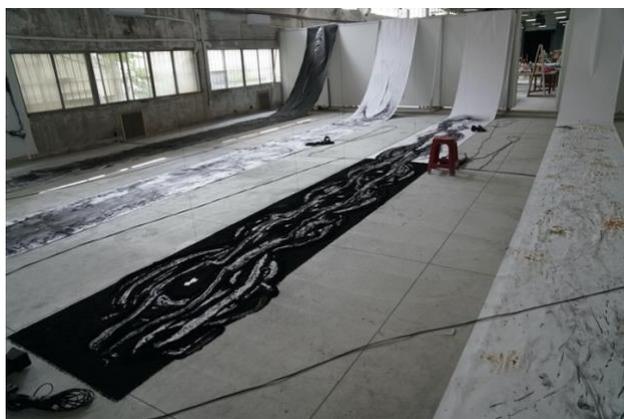
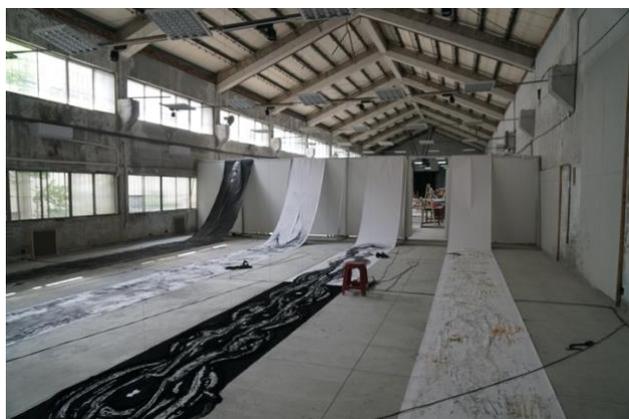
塑像系工房

◆旧造幣局跡地を利用した工房 <美術学院大工房>

台湾芸大に隣接する旧造幣局の建物を借り受けて、学生の制作工房や展示空間として利用



主に大学院生が利用するアトリエ群



制作アトリエの他、展示スペースとしても多目的に有効利用

◆11月2日（土）高雄訪問

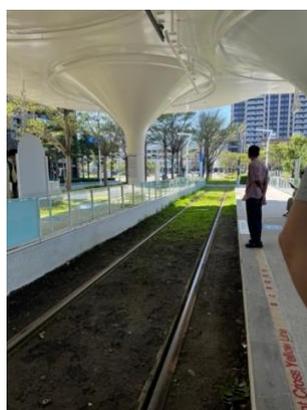
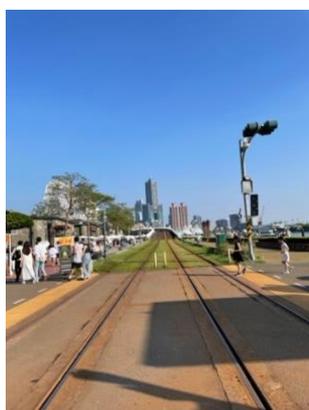
台湾第二の港湾都市として近年めざましい再開発をとげる高雄市を訪問し、美術館、ギャラリー、アート特区を訪問



高雄港



美麗島駅ステンドグラス

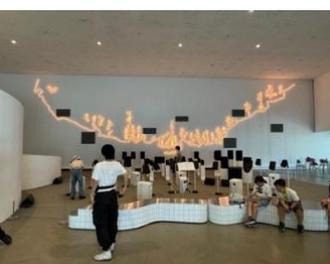


2024年度全線開通した高雄ライトレール LR / 高雄市中心部と港湾再開発部とを円環状に結ぶ環状ライトレール

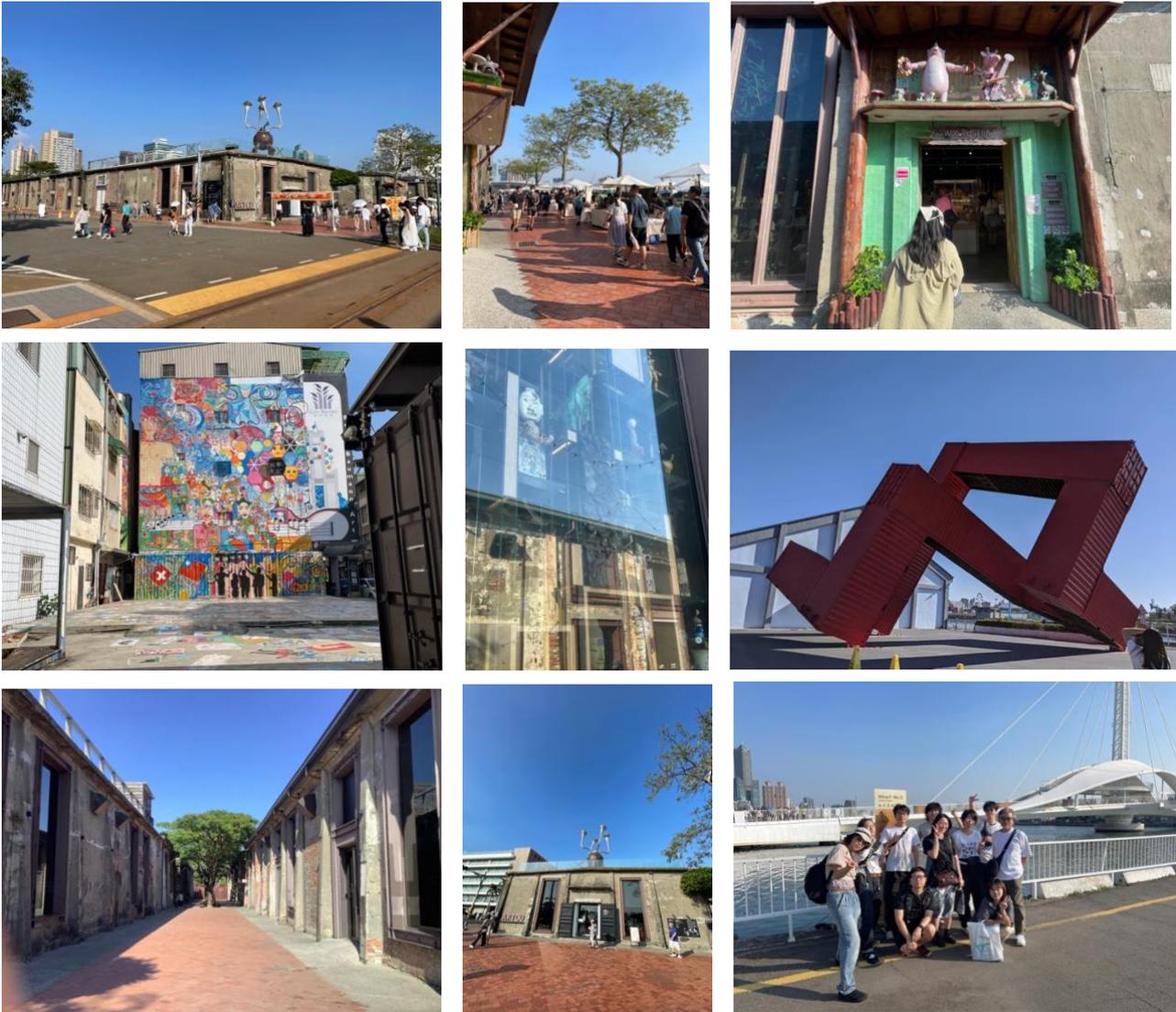
高雄市内美術館



内惟芸術センター



駁二アート特区 / 港湾地区の倉庫街をテナントやギャラリーに改装した再開発地区の中心的観光エリア

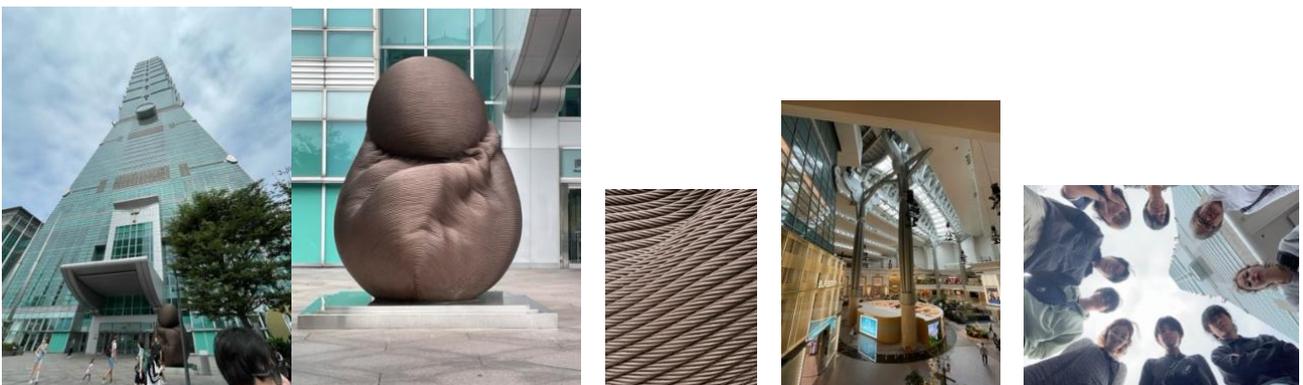


台湾の各都市部には多くのリノベーションをされたアート特区が存在しており、再開発のあり方やアートと市民との接点が日本よりもより身近に感じられた。

◆11月3日（日）台北市内研修

研修6日目は台北市内の史跡や美術館、アートワークなどを視察し研修を行いました。

台北 101



松山文創園區

同施設は日本統治時代の「台湾総督府専売局松山煙草工場」後をリノベーションされた施設。「文創」とは歴史ある古いものの中に良さを見出して新たな文化を創出していくこと。様々なショップやギャラリー、カフェ、などが入り台北のアート、カルチャーの発信地となっている。



台北市立美術館



台北当代艺术馆





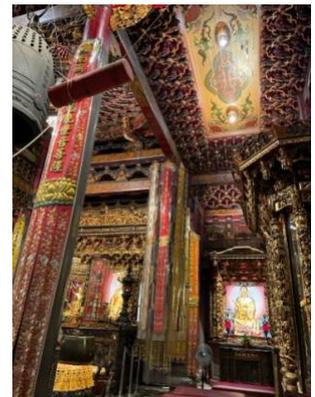
台北当代芸術館は日本統治時代に尋常小学校として建てられた2階建煉瓦造りの建物。2001年に現代美術館としてリニューアルオープンした。現在は公募形式の企画展が年間をとうして開催されている。

國立中正紀念堂



龍山寺

1738年に中国福建省からの渡来人により建立され、本尊は観世音菩薩であるが現在では道教や儒教など様々な宗教が習合した寺院。伝統的透かし彫りが見事な本堂の石柱。



◆11月4日（月）国立台北芸術大学・子隆山房鎌倉塾見学

本学交換留学協定校である国立台北芸術大学を訪問し、主に美術学院共通工作工房。彫塑系工房を見学しました。



国立台北芸術大学正門



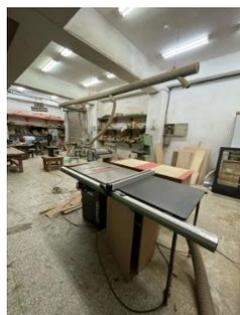
校舎通路を利用したギャラリー



彫塑工房



テラコッタ工房



木工工作室



機材管理室



メディア工作室



3D カービング



3D プリンター





石彫工房

金属工房

1982年に設立された台北芸術大学は音楽・美術・演劇・舞踊・文化資源学院の5学院からなる総合芸術大学であり、現キャンパスは、本学卒業生である張子隆氏（82年彫刻科卒/彫刻家・元台北芸術大学学部長）により設計整備されました。緑豊かな広大な丘陵地を利用したキャンパスにはレストランやカフェなどもあり、開かれたキャンパスとして市民にも親しまれている様子でした。

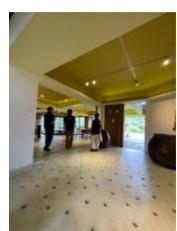
子隆山房・鎌倉塾訪問

子隆山房は台北北西部、新北市石門区にあり本学の卒業生 張子隆氏（82年 彫刻科卒 / 彫刻家・元台北芸術大学学部長）の住居兼工房であり私設美術館とアーティストレジデンスを備えた施設です。台湾海峡に面した風景区白砂湾は日本統治時代には鎌倉湾と言われていたことから、同工房名も鎌倉塾と命名されました。



子隆山房

ギャラリー



アトリエ

石彫工房

レジデンス宿舎

レセプションホール



山房にて

白砂湾にて昼食会

白砂湾を背景にて

◆11月5日（火）故宮博物院鑑賞その他

故宮博物院



十份瀑布

九份訪問

台湾のお茶文化を堪能



◆11月6日（水）帰国（松山空港～羽田空港）

<研修まとめ>

今回の国際交流の目的である国立台湾芸術大学との共催プログラムであるシューズボックス展及び、大学院生論壇開催に際して約1年以上前から同芸大担当教員との協議を重ね、アジア諸国全9校もの芸術大学の参加が得られ今後の大学間の連携はもとより、各大学学生の作品展示とプレゼンテーション、シンポジウムなど貴重な国際交流の機会を提供することが出来ました。特に現地開催校である台湾芸大は本学とダブルディグリー制度の制定に向けて協議を開始したところでもあり、同校との積極的な交流が期待されます。また、アジア諸国における芸術大学、とりわけ「彫刻」という人類の歴史と共に歩んできた領域にたいする各大学の取り組みや現状の意見交換ができたことは、芸術ジャンルの拡張性を前提とした今後の彫刻領域の可能性についても一石を投じるものとなりました。なかでもフォーラムの話題として、アジア地域におけるアートの市場主義的なあり方や、卒業後、作家の自立性について学生から意見が出されるなど今後の課題が浮き彫りとなりました。アジア諸国の抱える諸事情や経済発展に伴う市場開発など、早々結論の出ることではなく学生含め引き続き議論を要する問題として認識を深めることが出来ました。また、本校からの参加者のうち中国からの留学生2名中、1名の台湾への入国ビザが発給されなかった事は中国と台湾両国の抱える問題が顕在化した一例でもありました。このような国際問題も踏まえながら同プログラムが今後とも継続され芸術をとおして、国境や人種を超えた交流が活発に行われることを期待いたします。

また国際交流活動支援金を賜りまして、大学にご協力頂きました国際交流センター各位に心から御礼申し上げます。

彫刻学科 水上嘉久